

## 地方だより



松江地方気象台全景

水の都松江は山陰の西端で、宍道湖と日本第6の湖、中海とを結ぶ大橋川を中央に、北と南に広がった街で、ラフカディオ・ヘルンがからこると下駄の音を聞いたという松江大橋が総御影の優美な姿をみせている。

市内にはヘルン旧居、菅田庵の茶室をはじめとして名所、旧跡が多く、国際観光特別都市に指定されている。付近には縁結びの出雲大社、民謡で有名な安来、美保関があり、「八岐の大蛇」、「国引き」等神話と伝説に包まれた静かな街である。新婚旅行は松江から玉造温泉に一泊し、出雲大社にお礼参りをするのがコースらしく、レジャーブームもあずかって、訪れる観光客は漸増している。

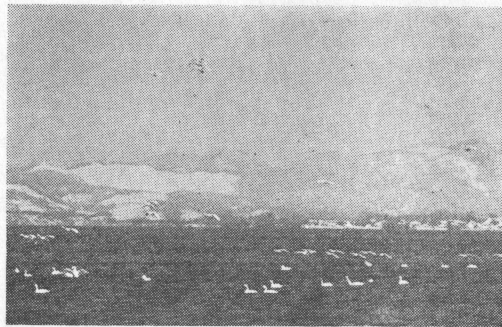
この近年は暖冬のせいで豆スキーヤーを嬉ばす位の雪しか降らないが、積雪 87cm の記録もあり、冬の季節風はきびしい。

「弁当忘れても長靴忘れるな」とは松江に赴任した者がはじめにおどされることであるが、ことほどきように雨や雪が多い。白鳥がシベリヤから宍道湖、中海に群をくんで飛来する初冬からしぐれがひんぱんになり、白鳥が帰って行く早春まで続く。

「冬の子報は楽でしょう。毎日、曇り時々しぐれ、時々晴れ間といっておけば当るんだから」とニヤリとされることもある。雨や雪の降ることはもとより、どんなとき晴れるかが？ 調査のテーマとなるわけである。

「八岐の大蛇」の神話は、実は洪水に荒れ狂う斐伊川とその治水の戦いであるとの説もあるほどで、大雨もひんぱんに起っている。隣の山口県からくるものもあるが、資料の何もない日本海から突然上陸してくるものもある。上流から下流まで2～3時間で水が出てしまうような河川が多いので、大雨や洪水の予報は大変なことである。冬の季節風と大雨に関するものが、今までの調査、研究の大部分であるのも尤もなことであろう。

## 松江地方気象台

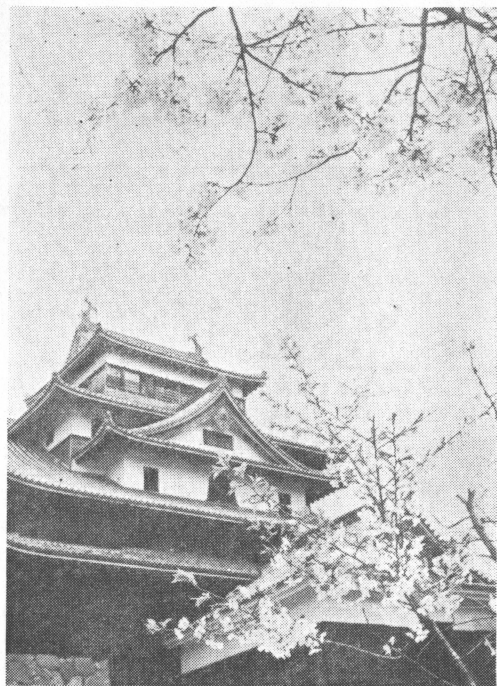


中海に遊ぶ白鳥

気象台は市の南部の小高い丘にある。農業試験場のあとだけあって桜、つばじ、紅葉と四季の美しいいろどりを誇っており、幼稚園や小学生が弁当を拡げているのを見るのも珍らしいことではない。

測風塔から溺れ死んだ美女をのせて一夜のうちに浮び上がったという伝説の嫁ヶ島を点景に、四季の雲を写す宍道湖が見わたされる。

文：来海徹一  
写真：鈴木正一郎



松江城

花見時となると、市内や近郊からどっとおしよせる。桜の名所。